皮膚科

〈皮膚の構造〉

表皮…角化細胞が４層の構造をなす。

→メラノサイト(紫外線から体を守るメラニンを生成する)、ランゲルハンス細胞(アレルギー反応の中心で免疫に関与)

真皮…線維芽細胞による細胞成分などで構成されている。

〈各皮膚疾患の特徴〉

・アトピー性皮膚→IgE高値

・蕁麻疹→膨疹…かゆみが強く紅く盛り上がった皮疹

・薬疹→薬剤に対しアレルギーを起こして全身に皮疹が出現。

⇒重症型薬疹…肝障害や発熱、水泡が糜爛化するなど重い症状を呈する。

・紅斑症・紫斑症→感染症、ベーチェット病、悪性腫瘍などで生じる。

※ベーチェット病…口腔粘膜のアフタ性潰瘍、外陰部潰瘍、皮膚症状、眼症状の4つの症状を主症状とする慢性再発性の全身性炎症性疾患で難病。

・膠原病

→・全身性エリテマトーデス…蝶形紅斑

　・皮膚筋炎…ヘリオトープ疹(薄紫色の発疹、上まぶたに多い)、ゴットロン徴候(肘関節や膝関節外側のがさがさした紅斑)

・強皮症…レイノー症状(手足の末梢の小動脈が発作的に収縮し血液の流れが悪くなり、手や足の指の皮膚の色が蒼白、暗紫になる現象)

・水疱症

→・尋常性天疱瘡、落葉状天疱瘡…表皮内水疱(弛緩した水疱)⇒やぶれやすい

　・水疱性類天疱瘡…表皮下水疱(緊満性水疱)⇒やぶれにくい

※このふたつの違いをしっかり覚える

・麻疹…コブリック斑(口の中の頬の内側に周囲が赤く中心が白っぽい斑点)

・疥癬(かいせん)…ヒゼンダニが原因、感染力が強い

・悪性黒色腫…メラノサイト由来の悪性腫瘍で予後が悪い。急に現れる黒色色素斑に注意。

〈水痘と帯状疱疹の違い〉

水痘も帯状疱疹も水痘帯状疱疹ウィルスという同じウィルスで発症する。しかし初めて感染した時には水痘になり、発熱と全身性の発疹が出る。一週間程度で症状は改善するが、一度かかった人の体のなかにはウィルスが持続潜伏感染しており、何かのきっかけ(疲労、ストレス等による免疫力低下)でウィルスがまた活動することがある。これが帯状疱疹である。